

子どもと本をつなぐ架け橋として

お母さん達のがのびのび活動

最近、ゲームや漫画など簡単に強い刺激が得られる娯楽におされ、子どもが読書を楽しむ姿を見ることがめっきり少なくなってきました。学校の図書室も子ども達の足が遠のき、多くの本が読まれることなく眠っています。そんな寂しい図書室をよみがえらせ、子どもに読書の楽しさを知ってもらおうと、ここ数年、各学校が様々な取り組みを行っています。今回は、そんな取り組みの一つとして立ち上がった、「常磐小学校図書ボランティア」をお訪ねしました。

私が訪ねた10月28日は、図書室で“読み聞かせ会”と“図書室の装飾製作”が行われました。“読み聞かせ”の準備をしている傍らで、お母さん達が、なにやらカッターナイフで切り抜いています。お星さまや小さなステッキ…どうやらクリスマスをイメージしたステンドグラスのようです。

「図書ボランティアというと『本好き』『読み聞かせ上手』というイメージがありますが、ここにはいろんなお母さんがいます。私はモノをつくるのが好きなので、図書室の飾り付けという形で参加しています」。自分の活動についてこう語る装飾班班長・川村かなさんのお話によると、装飾班はそんなクラフト好きなお母さんの集まりで、季節ごとに飾り付けを企画しているのだそうです。「みんなでおしゃべりしながら作っているうち、どんどん新しいアイデアが飛び出して、いつも、初めて企画したものよりずっと素敵に仕上がる



平成14年、学校長の呼びかけで自主的に集まったボランティアにより発足。現在会員は23名。貸し出し業務の補助、読み聞かせ会の開催、本の修理と整理、図書室の飾り付け、お便りの発行等を行い、児童の図書室の利用をサポート。

んです」。川村さんの言葉に、お母さん方がのびのびとその隠れた？才能を発揮している様子がうかがえます。

大切なのは心のふれあい

「会員は、装飾・読み聞かせ・修理・整理・お便りの5つの班のどれかに入り、無理せず自分に合った活動をしています」と、副代表・東香織さんは説明を加えます。「日々のこれらの活動を通し、子ども達との交流にもしたいに広がりが出てきました。ちょっと本を読んであげたり、お話を聞いてあげたり、装飾の作り方を教えてあげたり…。東さんに話をお聞きしている間も、図書室には、装飾作りの作業をのぞいたり、お目当てのお母さんに本を読んでもらっている子ども達のほほえましい姿が見られ、和やかな雰囲気が広がっていました。

「家ではほめられることってあまり無いから、子ども達にほめられるとうれしくなります」。そう語るボランティアのお母さん達と、子ども達との温かい心のふれあいこそが、子どもと本をつなぐ大切な架け橋であると、この会の活動を見て感じました。



読み聞かせ会では、大きな紙芝居に効果音付きの大熱演。私も歳を忘れてしばしお話の世界へ…。